

数字を読み解く 62.6%

～地元（Uターンを含む）就職を希望する学生の割合

オンライン普及で2年連続上昇～

<2022/6/3 大分合同新聞掲載>

数字は、株式会社マイナビが公表している「2023年卒 大学生Uターン・地元就職に関する調査」にある「地元（Uターンを含む）就職」を希望する学生の割合だ。

本調査は同社が毎年実施しているものであり、今年は3月18日～4月6日の期間に、2023年3月卒業見込みの全国の大学生・大学院生計5420人を対象に実施した。

地元就職を希望する学生の割合（62.6%）は、前々年（54.9%）をボトムに、2年連続で上昇している。同社では、新型感染症を受けたオンラインでのインターンシップや就職活動の普及により、地元を離れていても就職活動に関する情報や選考を受けやすくなった点も、地元での就職志向を高めている要因と分析する。

また、同社の「マイナビ 2023年卒 大学生就職意識調査」を見ると、就職観としては「楽しく働きたい」とする学生が最も多く（37.6%）、企業規模では「中堅・中小企業を志向」する学生の割合（47.8%）が2年連続で上昇している。同社では、学生はやりがいのある仕事を求め、それが実現できるのであれば大手企業であることにこだわらないという傾向が読み取れるとする。

県内では生産年齢人口の減少もあって、人手不足を課題として掲げる企業が幅広くみられている。新卒採用の季節を迎える中、県内企業が採用活動において、自社の魅力や仕事のやりがい、職場の雰囲気などを丁寧に伝えることで、自社あるいは大分県の次代を担う人材を獲得していくことを期待したい。（日本銀行大分支店）